

1. 内政

▼議会の動き

- ・18日、ルィバク最高会議議長は、2012年最高会議選挙での5小選挙区における問題及び議員資格剥奪問題に関する最高会議臨時調査委員会を設置することで各党派が合意に達した旨発言。同日、中央選挙管理委員会は、高等行政裁判所により議員資格が剥奪されたヴラセンコ「バチキフシチナ」及びヴェレフスキー地域党元議員に代わり両党の比例代表名簿で次点であった議員2名を登録。19日、両名は、最高会議にて宣誓を実施し、正式に議員に就任。
- ・19日、野党議員は、5日に開始した最高会議議場の封鎖を解除し、同日、最高会議本会議が開催。クリチコ「ウダール」党党首は、キエフ市長及び市議会選挙に関する審議を実施するよう要求し、二回投票制での同市長選挙の実施及び同市長と行政府長官職の統合を提案。同日、地域党議員は、両選挙の6月実施の合憲審査を憲法裁判所に請求。
- ・21日、最高会議は、キエフ市長選挙と同市議会選挙の実施日を6月2日とする旨の決議案を第一読会においてのみ採択。エフレモフ地域党会派代表は、選挙実施を確定する前に憲法裁判所の判断を仰ぐ必要がある旨発言。

▼その他

- ・16日、野党は、リヴィウにおいて全国抗議集会「立ち上がれ、ウクライナ」を実施。
- ・21日、ヤヌコーヴィチ大統領は、地方政府改革に関する地方連携会議及びメディア分野の法制度の欧州基準への適合問題に関する有識者会議に出席。
- ・22日、プシヨカ検事総長は、ティモシェンコ前首相関連の事件を担当していたフロロヴァ検事を副検事総長に任命。

▼世論調査

[ラズムコフ・センター]

- ・近日中に最高会議選挙が実施された場合の政党支持率(投票意思のない者を除く)
地域党:29.3%、「バチキフシチナ」党:19.4%、「ウダール」党:15.7%、「スヴォボーダ」党:13.6%、共産党:6.1% 等
- ・近日中に大統領選挙が実施された場合の候補者支持率
ヤヌコーヴィチ大統領:20.7%、クリチコ「ウダール」党党首:14.4%、ヤツェニウク「バチキフシチナ」会派代表:11.3%、チャフニボク「スヴォボーダ」党党首:6.6%、シモネンコ共産党党首:4.8% 等
- ・ヤヌコーヴィチ大統領の活動を
全面的に支持する:14.0%、部分的に支持する:26.1%、支持しない:56.4%
- ・調査は3月1日から6日にかけて2,010名の成人を対象に

実施。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・19日、閣僚会議は、2013～2014年の国家経済発展加速プログラムに明記された社会及び経済発展の優先プログラムを実現することにより2014年の予測GDP成長率3～4%が達成できるであろう旨発表。
- ・20日、アザロフ首相は、2013～2014年の国家経済発展加速プログラムが完成した旨発言。同首相は、近日中に修正された同プログラムに署名を行う予定であり、4,000億フリヴニャの投資を要する国の産業化のための包括的なプログラムとなるであろう旨併せて発言。

▼IMF関係

- ・22日、ウステンコ・ブレイザー財団事務局長は、為替相場に人為的には介入しないとするアルブゾフ第一副首相の声明は正しい選択である、第一にIMFは財政部門の過度な規制に反対しており、第二にIMFの主な要請はフレキシブルな為替相場自体ではなく、財政政策と現実の経済情勢の整合性及びその予見可能性が重要であるとしており、両方の要請が満たされるであろう旨発言。

▼自動車セーフガード

- ・19日、EU代表部は、ウクライナが14日に発表した輸入自動車を対象とした特別措置(セーフガード)はEU諸国からの自動車の輸出に破壊的影響を与えかねないとして、同措置の撤回を求める旨の声明を发出。

▼ガス問題

- ・19日、アザロフ首相は、ガス輸送システムのコンソーシアム創設に関しウクライナ及びロシアは交渉の準備が整っているとして、EU側からの提案を待っている旨発言。同日、駐EU露大使は、コンソーシアムにEUの参加の必要性はないとして、ロシアはウクライナに対し2国間でのコンソーシアム創設の提案を行った旨発言。
- ・20日、トンビンスキー駐ウクライナEU代表部大使は、ガス輸送システムはウクライナの問題であり、コンソーシアム創設に関する提案はウクライナ側から行うべきである旨発言。
- ・21日、メドヴェージェフ露首相は、ロシアがウクライナとのコンソーシアム創設に参加する条件はウクライナの(欧州)エネルギー共同体からの脱退である旨発言。
- ・20日、国家統計局は、1月のドイツからのガス購入量を4,671万立方メートルと発表。平均価格は、千立方メートルあたり390ドルで、ロシアからの購入額より16ドル安価。

3. 外政

▼シャーマン米国務次官の来訪

- ・19日、アザロフ首相は、ウクライナを訪問したシャーマ

ン米国務次官(政務担当)と会談し、国内改革の実施状況等を説明。シャーマン国務次官は、ウクライナが困難を克服し、政治的・経済的未來が開かれることを信じている旨発言。

・20日、ヤヌコーヴィチ大統領は、シャーマン国務次官と会談し、ウクライナは戦略的パートナーシップ憲章に基づき核軍縮問題を含む全ての分野において米国との協力関係を強化する意向であるとし、コジャーラ外相とケリー国務長官の会談の実現を期待する旨発言。

・20日、コジャーラ外相は、シャーマン国務次官との会談においてエネルギー分野における両国協力の展望、IMFとの協力問題、OSCE議長国としてのウクライナの課題及びウクライナの欧州統合問題等に関し協議。

・20日、シャーマン国務次官は、ウクライナ政府が野党指導者に対する恣意的裁判の問題を解消すべきと述べ、ウクライナに対する制裁は検討していない旨発言。

▼ヤヌコーヴィチ大統領のポーランド訪問(22日)

・20日、コモロフスキ・ポーランド大統領は、EU・ウクライナ連合協定が署名されなかった場合、ウクライナは欧州路線からはずれ、地域の地政学的状況に悪影響を及ぼす可能性がある旨発言。

・22日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ポーランドを訪問し、コモロフスキ・ポーランド大統領及びアーデル・ハンガリー大統領との3者会談においてウクライナ・EU連合協定署名問題等に関し協議。会談後、3首脳は、2014年サッカー・ワールドカップ予選ポーランド対ウクライナを観戦。

▼その他

・18日、メドヴェージェフ露首相は、ウクライナが模索している「3+1」での関税同盟への参加形式はありえない旨発言。

・19日、グリシチェンコ副首相は、バチカンを訪問し、新ローマ法王フランシスコ1世の就任式に出席。

・19日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ヤルタ欧州戦略監督委員会の会合に出席し、連合協定署名に向けた体系的改革の重要性を強調。クファシニエフスキ同委員長(元ポーランド大統領)は、連合協定署名が実現すれば欧州及びウクライ

ナにとり歴史的な瞬間になるであろうとし、ウクライナとEUの合意事項の進展状況に関する欧州議会監視団による報告を5月初旬に発表する意向である旨発言。

・19日、英エコノミスト・インテリジェンス・ユニットは、2012年民主主義指数を発表し、ウクライナは2010年の6.30(167か国中67位で「欠陥のある民主主義」)から5.91(同80位で独裁と民主の「ハイブリッド体制」)に下降。

・20日、欧州委員会は、2012年欧州近隣政策に関する年次報告を発表し、ウクライナでは司法改革等の分野においては一定の進展がみられたもののEUの勧告の大半は実施されていない旨等指摘。

・22日、最高会議は、「査証手続簡素化に関するウクライナ・EU間協定の修正に関する合意」を批准。

▼世論調査

[民主イニシアチブ基金及びキエフ国際社会学研究所]

・EU加盟に

賛成:59.3%、反対:40.7%

・関税同盟加盟に

賛成:57.5%、反対:42.5%

・EUあるいは関税同盟のどちらへの加盟を望むか

EU:51.9%、関税同盟:48.1%

・質問は「次の日曜日に国民投票が実施された場合」を問うもので、調査は3月5日から13日にかけて2,037名の成人を対象に実施。

4. 防衛

・18日、ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)は、2012年のウクライナの通常武器輸出額は13億4,400万ドルで世界4位(トップ3は米国、ロシア、中国)であった旨発表。

・22日、ザマナ参謀総長は、ショイグ露国防相とモスクワで会談、両国間の戦略的パートナーシップ、共同戦術戦闘訓練、軍事技術協力、露黒海艦隊のウクライナ駐留等に関し議論。

(了)